



PbOPSS-23

無作為オンラインパネル

無作為オンラインパネル『PbOPSS-23』のご登録者の皆様へ 2025 年第 3 回アンケートの全体結果のご報告・その3

2026 年 3 月

拝啓 この冬は大雪だった地域も多かったようですが、ようやく過ごしやすい季節となってまいりました。いかがお過ごしでしょうか。

皆様には先日、第4回 PbOPSS-23 パネル調査「多党化する新たな変動期の政治と外交に関するアンケート」への回答をお願いいたしました。お忙しいなかご協力くださったことに、あつく御礼申し上げます。

今回お答えいただいた内容の分析はこれから始めますので、この通信では 1 年前に実施した第 3 回「2024 年の日本の政治変動と経済生活についてのアンケート」と、あらたに 2025 年 12 月に実施した「メディアとニュースに関する意識調査」を用いて、引き続き「政治家と政党への好感度」に関する結果を報告いたします。高市早苗氏の政治家としての好感度はこの 1 年の間にどう変化したのか。自民党、立憲民主党とともに好感度の「変化」を分析してみました。

今回も、E メールでの連絡をご希望されていた方も含めすべての方に印刷物でお届けさせていただきます。今後郵送を希望されない方は、お手数ですが下記の受付窓口までご連絡ください。

いよいよ来年度が最後の年になりました。4 月以降の 1 年間で 4 回の PbOPSS-23 定期通信をお送りする予定であります。お手元に届いた際にはご覧いただければ幸いです。最後の 1 年も、少なくとも 1 度は皆様にアンケートをお願いしたいと思います。もし可能であれば、定期通信の際などに簡易版のアンケートも試みたいと考えています。どうか引き続きご協力をお願いいたします。

敬具

皆様の個人情報につきましては、プライバシーマークを取得している専門調査会社のサーベイリサーチセンターのみが登録者名簿を厳重に管理し、大学研究者は皆様のご住所、お名前、メールアドレスは所持しておりません。この通信も、研究者側が作成したあと調査会社へ送付を委託してお届けします。ですので、住所やメールアドレスなどご連絡先の変更は、下記のサーベイリサーチセンターの受付窓口にご連絡下さい。

ご連絡先変更などの受付窓口

株式会社サーベイリサーチセンター 調査事務局 <https://www.surece.co.jp/>
〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目1番3号 PMO 水道橋ビル 6F 担当:土屋・阿部・西浦・生島
フリーダイヤル 0120-366-354 (平日 9 時～18 時・土日祝祭日を除く)
メールアドレス ochakenkyu@surece.co.jp

研究プロジェクト

研究代表者: 杉野 勇(お茶の水女子大学)
研究分担者: 尾嶋 史章(同志社大学)、歸山 亜紀(亜細亜大学)、
小林 大祐(金沢大学)、轟 亮(金沢大学)、平沢 和司(北海道大学)

研究プロジェクトのウェブページでは、結果の報告など随時情報を更新しています。
URL: <https://www.li.ocha.ac.jp/ug/hss/socio/sugino/PbOPSS23/>



2026 年 3 月

〔高市早苗氏と自民党の好感度はどう変化したか〕

図 1 好感度（高市早苗氏）2025年2月

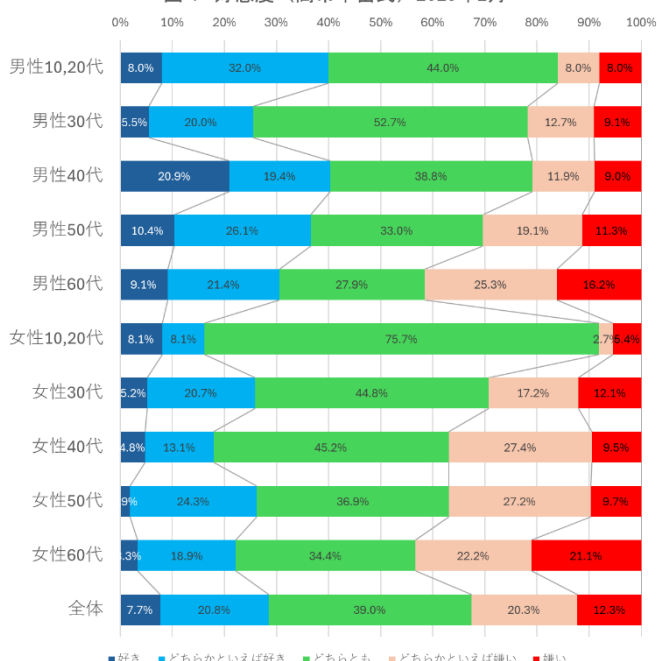
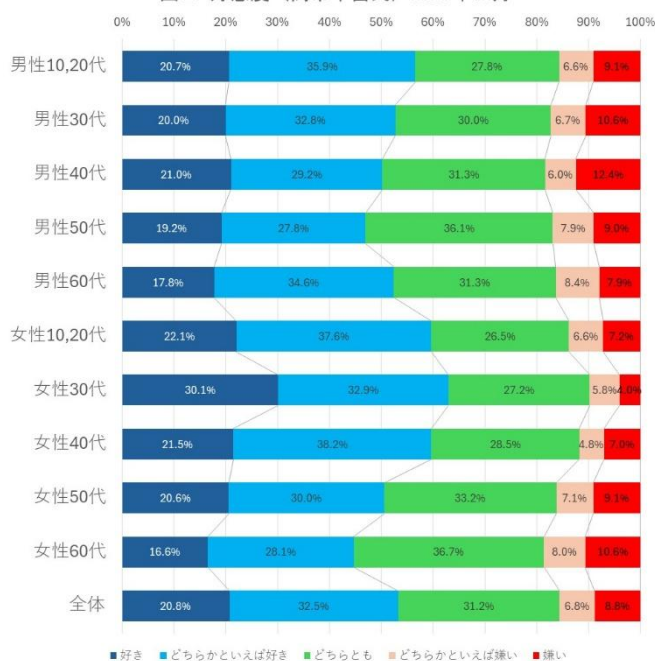


図 2 好感度（高市早苗氏）2025年12月



昨年 11 月にお届けした定期通信第 9 号では、第3回調査の 2025 年 2 月の時点で同氏がすでに年齢層を問わず一定の支持を得ていたことをお伝えしました。図 1 は性別と年齢を組み合わせ、そのときの高市氏の好感度を示したものです。図中の横棒のうち青い部分が「好き」または「どちらかといえば好き」と答えた方の比率を表しています。図 1 から男性 10・20 歳代、40 歳代でとくに好感度が高いこと、それに対して女性はほとんどの年齢層で男性より好感度が低いことが分かります。

図 2 は、総選挙投開票日（今年 2 月 8 日）の約一ヶ月半前に当たる 2025 年 12 月の状況です。図 1 と比べると、女性からの好感度がどの年齢層でも上昇し、全体（各図のもっとも下の横棒）でも過半数の方が好感を抱えていることが示されています。

本年 2 月の衆議院選挙では、高市早苗氏の政治家としてのこうした高い人気が自由民主党の大勝に繋がったとされています。それは本当でしょうか。今度は自民党という政党に対する好感度を、2025 年 2 月（次ページの図 3）と 12 月（図 4）で比べてみましょう。年齢層で多少の違いはありますが、自民党の好感度は高市氏とは異なって、全体としてそれほど高いとはいえず、しかもこの間にほとんど変化していません。なかには女性 10・20 歳代のように「どちらかといえば嫌い」「嫌い」が増えた部分もありますが、全体としては 2 時点間でおどろくほど傾向が似ています。

したがって、自民党の歴史的勝利に高市氏（への好感）が貢献したのかもしれませんが、自民党じたいはそれほど好かれているわけではなく、高市氏の好感度は自民党の好感度に直結しないということのようです。

⇒2025 年 12 月調査は PbOPSS-23とは別に行われました。4 ページに説明がありますので、必要に応じてご覧ください。

〔自民党と立憲民主党の好感度はどう異なるか〕

他方で自民党と対照的にのちの衆議院選挙で大敗を喫した（当時の）立憲民主党はどうだったでしょうか（ご存知のように、立憲民主党は公明党と合流し、新党「中道改革連合」を結成して選挙を戦いました）。2 つの調査の、立憲民主党の好感度を、図 5（2025 年 2 月）と図 6（2025 年 12 月）に示しました。

図3 好感度（自由民主党）2025年2月

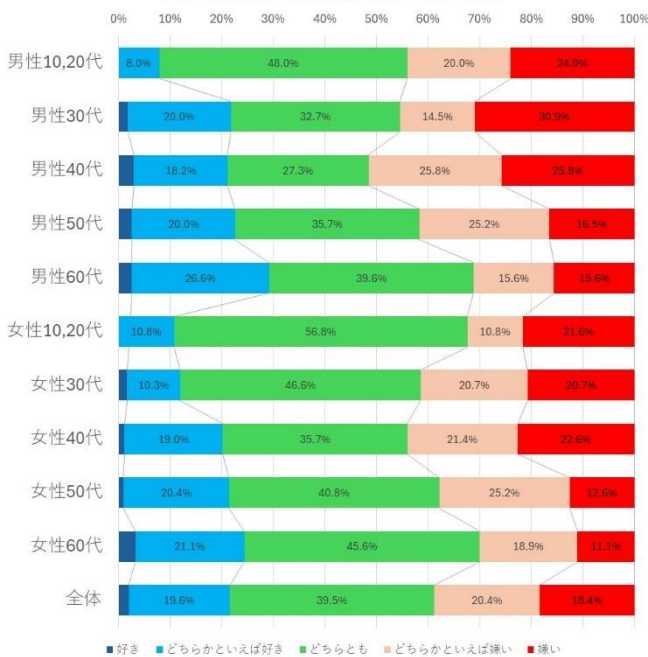


図4 好感度（自由民主党）2025年12月

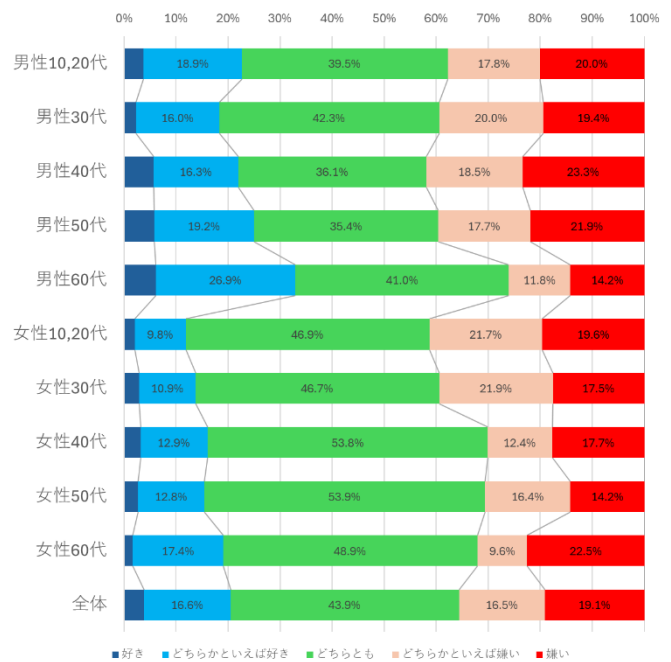


図5 好感度（立憲民主党）2025年2月

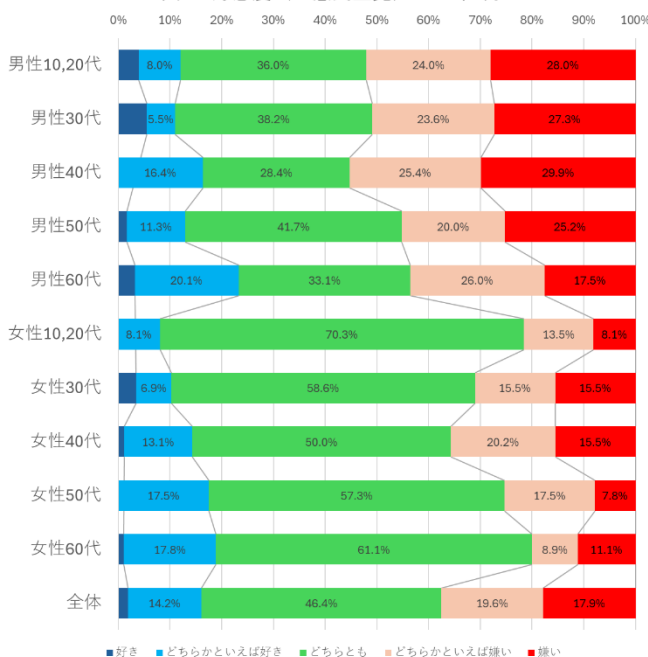
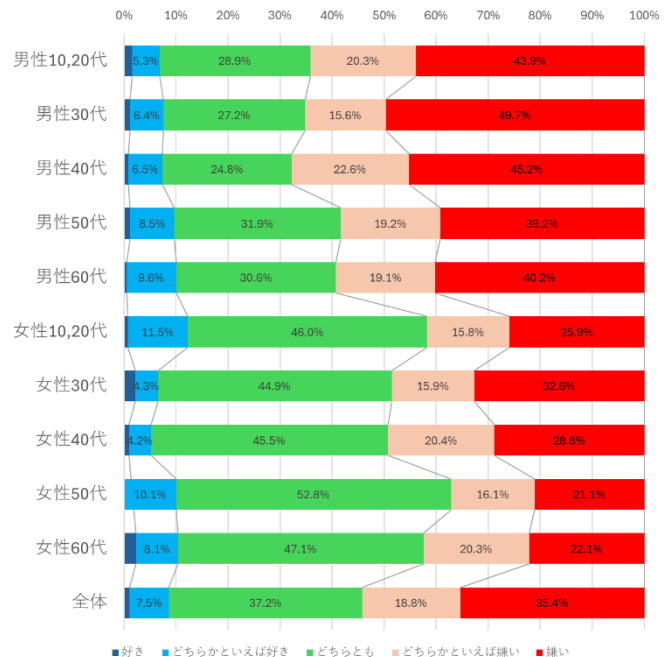


図6 好感度（立憲民主党）2025年12月



まず2025年2月の時点で、立憲民主党は自民党と比べて全体として好感度が低い傾向が認められるものの、このときは両者間にまだ決定的な差異があるとはまだはいえないように見えます（図3と図5の比較）。ところが2025年12月になると、「好き」あるいは「どちらかといえば好き」を合わせた比率が全体で8.6%となって2月の16.1%から半減した一方、「どちらかといえば嫌い」「嫌い」が37.5%から54.2%へ上昇しています（図5と図6の比較）。

したがって自民党の好感度が（それほど高いわけではないとはいえ）2時点間でほとんど変化しなかったのに対して、立憲民主党の好感度は下がっていたといえます。立憲民主党の衆議院選挙での敗北には、衆

2026年3月

議院での中道改革連合への組み替えなどほかの要因も絡んでくると思われますが、解散・総選挙の前にすでに好感度が、高市氏や自民党とは異なる傾向にあったことは、以上の2つの調査の結果から確かです。

〔好感度の違いを正確に分析するには〕

ただし、以上の分析には2つの課題が残されています。ひとつは、2025年12月調査は、2月のPbOPSS-23とは異なって、対象者が無作為抽出されていないことです。もうひとつは、同じ人の中の変化（の有無）が分からないことです。たとえばかつては立憲民主党に好感を抱いていた人が抱かなくなったのか、あるいは変わらず好感をもっているのか、それはどういう人か、といったことを明らかにするには、同じ方に継続して調査に回答いただき、その調査結果の変化をみていくことが欠かせません。みなさまにお願いしているPbOPSS-23は、まさにそうした分析が可能となる貴重なデータです。先日お答えいただいた2026年3月調査をもちいた分析結果をいずれお伝えしたいと考えています。

〔比較に用いた2025年12月調査について〕

「メディアとニュースに関する意識調査」は、社会調査研究会メンバーの轟亮（金沢大学）が企画・実施いたしました。2025年12月18日～22日の期間、調査会社の登録モニターを通じて、全国の18歳から69歳の男女計2,350名にご協力いただきました。データの偏りを防ぐため、居住地域（5区分）や年齢層の構成比を人口統計に合わせて割り付ける形で回収し、男女比も均等に設定しています。本データは、無作為抽出による「PbOPSS-23」とは異なり、あらかじめ登録されたモニター（非確率パネル）を対象とした調査手法を用いている点が特徴です。

〔社会調査法研究会の研究成果の図書が刊行されました〕

最後に、私どもの研究活動の近況を共有させていただきます。このたび3月15日に、私たちが編者・執筆を務めました教科書『入門・社会調査法』（法律文化社）の改訂第5版が刊行の運びとなりました。

本書は、皆様のような調査協力者の方々のご理解があってこそ継続できている研究・教育活動の一環としてまとめられたものです。大きな書店の社会科学コーナー等に並んでおりますので、もしよろしければぜひ一度、ご覧いただけますと嬉しく存じます。

みなさまの日々の御協力に、
あらためて感謝申し上げます。

